

「協働」で生まれる、 新しい寄付のかたち

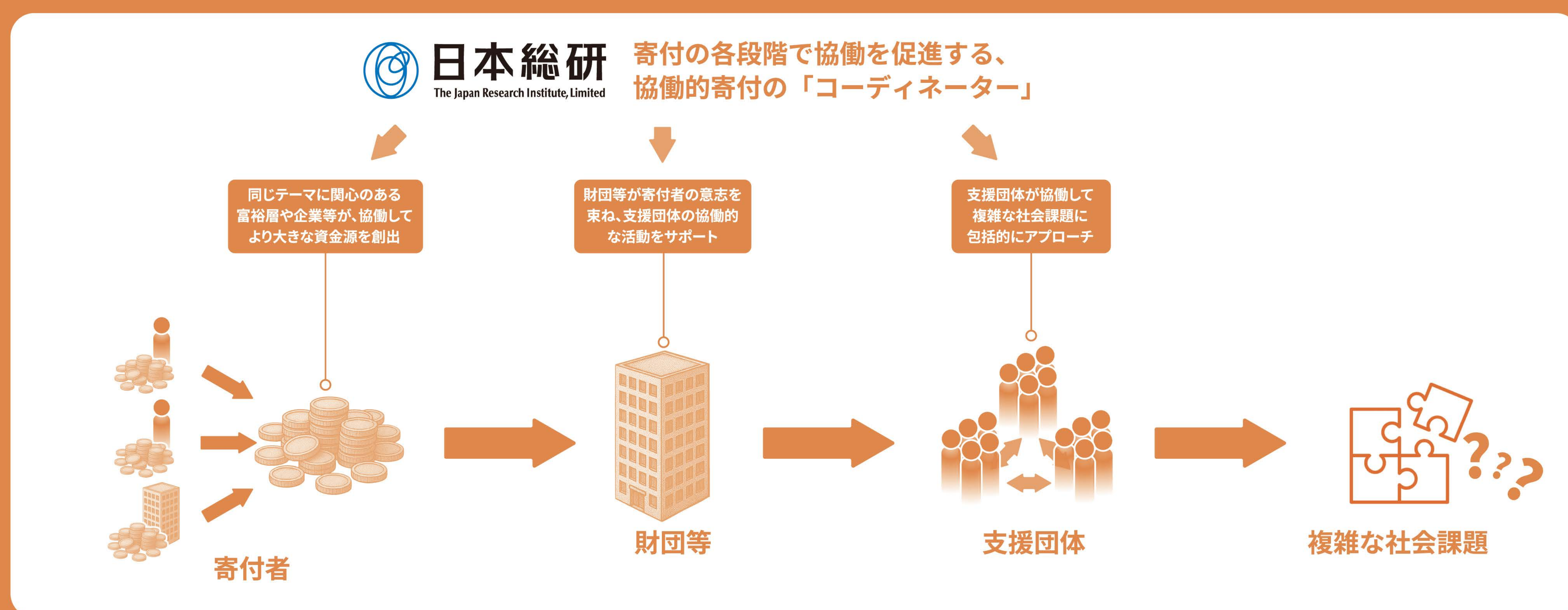
子どもの貧困、若者の孤立や孤独、地域の居場所づくり—

世の中には、ビジネスや行政の力だけでは解決が難しい社会課題が数多くあります。そうした課題の解決に向けて、大きな支えとなるのが「寄付」(フィランソロピー)の力です。日本総研では、寄付の輪を広げ、多様なステークホルダーと共に社会課題の解決に取り組むプログラムを実施しています。

Our Project:

①富裕層や企業の資金を戦略的に社会課題解決に活用する「協働」のコーディネート

多様化・複雑化した社会課題の解決には、対症療法的な個別の対応ではなく、寄付者や支援団体が「協働」して共に取り組むことが不可欠です。日本総研は、そうした「協働的寄付」を実現するための仕組み作りに取り組んでいます。



②「寄付」について知り、体験する教育プログラムの実施

日本総研では、学生が「寄付」を通じて社会課題への理解を深め、自らの意思で社会と関わる力を育むことを目的とした寄付教育プログラムを実施しています。

授業ではまず「寄付とは何か」を学んだうえで、社会課題の現状やその解決に取り組む支援団体の活動を調査します。その後グループごとに発表を行い、最も共感した団体に投票し、実際に寄付を行う先を決定します。寄付を行う際の寄付金の原資は企業の社会貢献活動や自治体の施策と連携しており、今後も財団や金融機関との連携を進めて行く予定です。現在は、三井住友ファイナンス&リース株式会社が提供するSDGs リース「みらい 2030®」(寄付型)のリース契約の手数料の一部から拠出頂いています。

実際の授業の様子は
こちらから！

